

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

1/15
令和7年(2025年)
No.2396

地域×オーケストラ
その可能性に挑戦!

日本を代表するオーケストラの一つ「日本フィルハーモニー交響楽団」。昨年、区と友好提携を結んでから30周年を迎えました。杉並公会堂を本拠地に、区立施設への出張コンサートなど多くの活動を区と共にやってきた同団。今回は、区と楽団をつなぎ提携事業を支えている、運営メンバー3名に話を伺いました。



特集

人
すぎなみピト

日本フィルハーモニー交響楽団を
支える人々

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・申し込みフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



杉並は家族のような温かさに満ちた、楽団のホームグラウンド



後藤 明彦

プロフィール：後藤明彦（ごとう・ともし） 昭和60年に入団。ピオラ奏者として30年間活動した後、運営へ転身。同楽団で常務理事を務める。

す。区としては、当時杉並公会堂の建て替えが計画段階にあり、新しいホールにオーケストラが居てくれたらと考えていたようで、双方の希望が一致したこともあって友好提携を結ぶに至りました。自治体とオーケストラが明確に提携を結ぶのは前例がなく、とても珍しいことでした。

一区とはどのような活動をしているのですか？

別府：区内各所での室内楽公演が年25回ほど。杉並公会堂での公開リハーサルおよびコンサート、区役所などでのロビーコンサートがそれぞれ年に数回あり、毎年3月には「春休みオーケストラ探検」という0歳から入れるコンサートを開いています。そのほか、区立施設などで出張コンサートを行っています。また、提携事業ではありませんが、区のふるさと納税寄付金を活用し、東日本大震災の復興支援活動として被災地でコンサート・ワークショップを行っています。深い関係を築けていたからこそ実現できた取り組みだと思います。

友好提携の好影響が演奏の質や社会活動の底上げに

一友好提携は楽団にどのような影響を与えていると感じますか？

後藤：オーケストラの音づくりに非常に良い影響を与えていることは明らかです。杉並公会堂という素晴らしいホールを練習場所として確保できたことで、演奏の質が確実に向上しました。あらゆる指揮者た



ちが「ここで練習できるのはとても幸せなことだ」と言います。同時に、日本フィルが昔から力を入れてきた社会活動も、区との提携を通してより深く充実したものになりました。この経験は、他の地域で活動するときにも生かされています。オーケストラが現代社会の中でどうあるべきか、日本フィルはそこを先取りして活動してきたと言えるでしょう。

一区内での活動で特に印象深いエピソードがあれば教えてください。

別府：さまざまありますが、やはりコロナ禍抜きには語れません。令和2年2月末、日本フィルは予定していた全ての公演の中止を決めました。その後、感染拡大で先が見えない中、「コロナ禍で何ができるのか？」を考え続け、区と杉並公会堂と共に室内楽コンサートの再開を試みました。1000席以上もある杉並公会堂に数十名の観客を招き、全員がマスクを付けての公演再開。あの日、生の拍手に感動した気持ちは今でも忘れられません。皆さんとの信頼関係なしには踏み出せなかった、コロナ禍での第一歩でした。

後藤：何カ月もオーケストラが演奏しないというのは前代未聞。それは奏者にとってはとても怖いことなんです。そこをできる限り早い段階で、ホームグラウンドである杉並の温かさの中で再開できたのは、本当に幸せな環境だったと改めて思います。

一区民との交流を、奏者の皆さんはどう受け止めていると感じますか？

杉山：それは絶対にプラスの経験になっていると思います。例えば小中学校で室内楽公演を行うと、子どもたちのアンコールの掛け声や、楽器を近くで見たときの驚き・感動といった反応の一つ一つが、本当に素直で素晴らしいのです。そういった反応をダイレクトに肌で感じると、確実に奏者も演奏に熱が入ります。

別府：大きなホールでの演奏とは、また気持ちも違いますよね。目の前の区民の皆さんにいい音楽を届けるんだというリアルな体験は、奏者の心の支えになっているのではないのでしょうか。



木山 まどか

プロフィール：杉山まどか（すぎやま・まどか） 令和4年に入団。「音楽の森」部署にて、室内楽アウトリーチ活動、区との連携における連絡・調整などの役割を担う。

多くの可能性に満ちた「地域×オーケストラ」のかたち

一友好提携を結んで30年。提携の未来をどのように思い描いていますか？

別府：提携事業を通して、子どもから大人まで、もっと多くの区民の皆さんに日本フィルのことを知ってもらいたい。「自分たちのオーケストラ」だと思ってもらいたい。「杉並区には日本フィルがあるよね」と、そんな言葉が区民の皆さんから自然に出てくる未来を目指して、今後も日本フィルと区の双方が努力を重ねながら、さらに良い関係を築いていきたいと思います。

後藤：今、学校では少子化による部活動存続の課題などを抱えていて、子どもたちが楽器に触れる機会が減っています。それは大きな問題だと私は思っています。次世代を担う子どもたちに音楽を通して大切なものを伝え、それらを育てていけるような活動に、ぜひ区と一緒に尽力していければと考えています。

杉山：杉並の子どもたちが大人になったとき、日本フィルのことを思い出して「ちょっと聴きに行ってみようかな」とコンサートに訪れてもらえる。そんな存在になれるように、地道に活動を続けていきたいです。

別府：これまで区と共にたくさんの企画を実行してきました。中には、前例のないような新しい挑戦もたくさんありました。そんな「地域×オーケストラ」の取り組みの成果を私たちだけで終わらせるのではなく、ぜひ全国に広げていきたいです。音楽団体がまちに居ることが、こんなにも面白くて可能性に満ちているということ、いろいろな地域に知ってもらい、同じような取り組みが波及していくことに期待しています。

別府-樹



プロフィール：別府一樹（べつぷ・かずき） 平成27年に入団。区との提携事業を含む社会活動を担う「音楽の森」部署を経て、現在は理事長室長、制作部アドバイザー、「東北の夢プロジェクトリーダー」を務める。

日本フィル 春休みオーケストラ探検

みる・きく・さわる

オーケストラ!

音楽とお話合わせたコンサートのほか、スタンブラリーや楽員によるリレーコンサートなどが体験できる親子向けのプログラムです。詳細は、区ホームページ（右2次元コード）をご覧ください。

日時 3月29日(土)午前11時50分・午後3時50分 (各50分)

場所 杉並公会堂 (上获1-23-15)

出演=和田一樹(指揮)、石井あみ(お話) ▶曲名=ビゼー「歌劇『カルメン』より『闘牛士の行進』」、アンダーソン「シンコペイテッド・クロック」、エルガー「『威風堂々』第1番」ほか 各3000円。小学生以下各2500円(3歳以下膝上無料) ☎電話で、日本フィル・サービスセンター ☎5378-5911 (月～金曜日午前10時～午後5時)。または、日本フィルeチケット♪ (区ホームページ同催し案内にリンクあり) から申し込み

YouTubeで配信!

すぎなみピト MOVIE

すぎなみピト「日本フィルハーモニー交響楽団を支える人々」のインタビュー動画を、右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル